

一般用医薬品(大衆薬)のインターネット販売の価格が下がっている。実質解禁となった1月の最高裁判決を受け、中小の薬局や大手小売りなどが参入。売れ筋の解熱鎮痛薬「ロキソニンS」はネットの最安値がドラッグストア店頭より2割強安い。政府の調整が難航するなか、大衆薬のネット販売は消費者に浸透しつつある。

下げ幅が大きいのは副作用リスクの高い第1類医薬品。価格比較サイト「価格.com」の最安

## 薬、ネットで値下がり

大衆薬の価格比較表

区分	主な売れ筋商品	
	価格.com最安値	都内のドラッグストア
第1類	ロキソニンS 12錠(解熱鎮痛薬)	680円
	ガスター10 12錠(胃腸薬)	1659円
第2類	パファリンA 40錠(解熱鎮痛薬)	698円
	タケタ漢方便秘薬 120錠(便秘薬)	2499円
第3類	ハイザオールCプラス 180錠(滋養強壯保健薬)	1888円

(注)21日時点、ネット通販は別途送料が必要

ター10(12錠)が1131円(同1659円)だった。店頭の値引き販売が常態化している第2類もネットの最安値が1割強安い商品が多い。ネットの価格引き下げをけん引しているのは家電量販大手のビックカメラだ。すでに第2類などは店頭より1割強安く設定。近く第1類の取り扱いも始める。アマゾンジャパン(東京・目黒)やアスクルなどネット通

ロキソニンS店頭より2割安も

## 参入相次ぎ、競争激しく

販大手の参入も拍車をかけた上で全面解禁すべし。当日配送」などきだとの意見は根強い。サービスで優位に立つアゾンなどに対抗するたマゾンなど、現状は製薬会社は市場全体の1%未満にとどまり、現状は製薬会社の取引価格に影響を与えるほどではない。政府内では医療用医薬品(処方薬)から転用して4年以内のロキソニンSなど23品目と成人向けの劇薬5品目に関する調整が難航。結論は先送りになっていく。23品目も価格下落のリスクとみられている。23品目は、調整が規制緩和の方向で決着すれば、店頭価格調整する厚生労働省に対してもネットにつられる形で、安全な販売ルールを